

令和6年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
英語科	1 基礎学力を重視した学習活動の展開	(1) 生徒の学習状況を理解し、生徒の状況に応じた授業を展開する。基礎的な英文法を反復し、発展できる土台を作る。 (2) 特別進学クラスでは、共通テストを意識し、リスニングと速読を中心とする。進学クラスでは、生徒が主体的に取り組める活動を取り入れる。 (3) 映像授業宿題や課題を活用し、生徒の家庭学習習慣の確立と知識の定着を図る。	A	A	(1) 基本的英文法の定着のための時間を作り、ある程度の成果を得られた。必要に応じて既習事項に戻り、更なる定着を図ったため、進学コースにおいては学習進度が緩やかになった。 (2) 特別進学コースでは、共通テストを意識した授業を展開することができた。ALT との活動を通して、生徒は主体的に活動することができた。 (3) 課題によって学習意欲を刺激し、生徒の意識を自学自習へと向けるきっかけとなった。
	2 ICT（情報技術）を用いた授業の展開	(1) ICT（情報技術）利用が目的とならない利用方法を教科内で共有する。 (2) 他教科における ICT（情報技術）の利用方法を参考とし、英語科における活用方法を検討する。			A
	3 学び続ける教員 ・民間の英語4技能検定の受験 ・問題研究 ・研究授業を一回以上実施する	(1) 英検、TOEIC など、民間英語4技能検定を受験または過去問を解き、自分なりの教え方を確立する。 (2) 共通テスト筆記100点・リスニング100点を全教員が目指す。 (3) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業を見て自分の授業を改善する。	B		(1) 自らの資質向上のため、各種検定に取り組んだ。また、受験できなかった教員も問題を見るなどし、傾向をつかむ努力を行った。 (2) 各教員とも、進路指導の一環として共通テスト過去問に目を通し、指導に活かした。 (3) 英語科内に留まらず、他教科を含む多くの先生の授業を見学する様にした。また、自身の授業に活かすようにした。